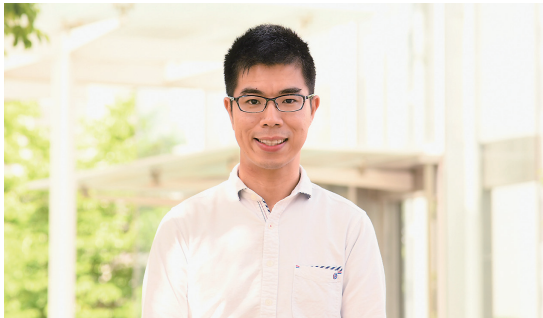


防災科研クライシスレスポンスサイト(NIED-CRS)による災害情報の発信



防災情報研究部門
総合防災情報センター情報統合運用室 特別技術員

吉森 和城

よしもり・かずしろ

1987年兵庫県神戸市生まれ。
2012年筑波大学大学院システム情報工学研究科博士前期課程修了。
電機メーカーにて防災システムのエンジニアを経て、2017年防災科学技術研究所入所。
災害情報の可視化、利活用に関する研究に従事。

災害状況を一元的に把握・認識する

自然災害による災害対応を迅速・効果的に進めるには、まず災害の状況を知ることが必要となります。災害の状況を知るためには個々人がそれぞれ情報を探すのではなく、様々な機関が発信する情報を一つの場所に集約し、それぞれの人が災害状況を一元的に認識することが重要であると考えられます。

そこで、災害状況を一元的に認識するための情報源として、私たちは災害が発生すると、防災科研クライシスレスポンスサイト(略称:NIED-CRS)を開設し、情報の集約・発信を行っています。この情報の集約・発信に関する研究開発を推進することにより、災害に対する一日でも早い予測、一分でも早い避難、一日でも早い回復に寄与することを目指しています。

防災科研クライシスレスポンスサイト(NIED-CRS)とは?

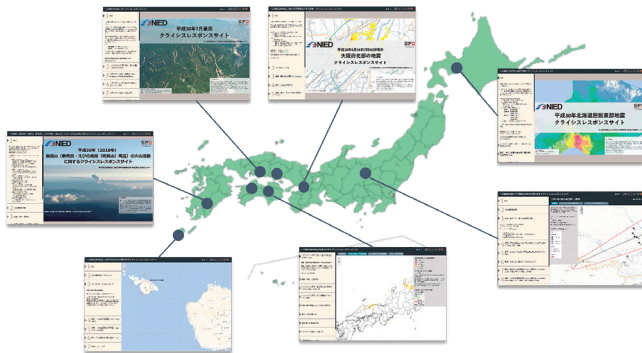
NIED-CRSは地震、火山活動、風水害などの自然災害の警戒期・発生期・対応期において、状況把握に役立つ情報を集約、地図などに情報を可視化し、1つのWebサイトに

取りまとめて発信しています。集約・発信する情報として、防災科研が解析した情報や、各機関が発信する災害情報が挙げられます。これまで発信してきたNIED-CRSはWebサイトにてご覧いただけます。(https://crs.bosai.go.jp/)

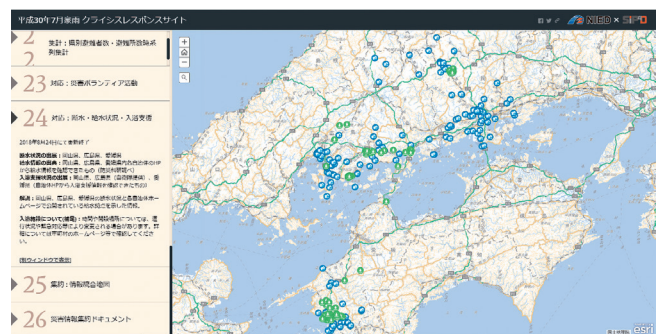
より効果的な状況判断のために

今後は、より迅速な情報発信、大規模な災害に対応する情報発信体制、利用される方にとってより利用価値のある情報の発信が必要となります。

迅速な情報発信や体制構築のために、各情報の発信をできる限り人の手を介在することなく発信できるように、情報発信の自動処理技術の研究開発を推進するとともに、NIED-CRSを災害時に構成・更新するための作業手順について標準作業手順化(SOP: Standard Operating Procedures)を進めていきます。最後に、利用される方にとってより利用価値のある情報を提供できるように、情報コンテンツの発信方法や表現方法について、研究開発を進めていきます。私たちは、今後もNIED-CRSによる情報発信を通じ、一日でも早い予測、一分でも早い避難、一日でも早い回復につながることを目指し対応を進めてまいります。



2018年に公開したクライシスレスポンスサイト



給水・入浴支援拠点を示した地図(平成30年7月豪雨クライシスレスポンスサイト)